ASAP カンボジア通信

NPO法人 アジアの子どもたちの就学を支援する会

たったひとつの電球の下で。多摩川コールタメイ小学校にて

2013.3

■ 第 17 回視察訪問のご報告
長谷川　理事長…P１

■ 多摩川コールタメイ小学校の様子…P２

■ トロク、タットム小学校の様子…P３～４

■ 多摩川コールタメイ村宿泊体験記
大沼　陽子…P５～６

■ Mother to Mother 報告…P７

■ 学校で美術教育が始まります！…P８

■ 次期寄贈校舎地決定…P８

■ ツアー参加者手記　上田　恵子…P９

■ 認定 NPO 法人申請についての報告…P10

Vol.11

第１７回視察訪問の報告

理事長　長谷川　安年

「カンボジアへの直行便が飛ぶ」との情報で、毎年２月～３月に実施している視察訪問を早め、急遽１月２１日～２６日に、第 17 回支援ツアーを実施いたしました。急な出発にもかかわらず、４名のご参加を頂き、総勢７名での訪問となりました。急であった故「春に参加しようと思っていたのに！」というお声も幾つか頂戴いたしましたが、私８４歳という老体に免じ、お許しいただければと思います。

別紙にてご案内しておりますが、８月には１８ 回目の支援ツアーを行いますのでどうぞご参加いただければと思います

今回は、最大の楽しみであった８月に完成した「多摩川コールタメイ小学校」訪問の他、毎回同様、支援校の視察と教育支援金支給の他、多摩川コールタメイ小学校校舎に見られる不都合箇所の点検と修理依頼、トロク、タットム小学校の管理委員との今後の支援の方向についての話し合い、トロク小学校の屋根修理の問題、校舎要請のあるキロタチュム小学校での話し合い、孤児院訪問等、視察と話し合いを中心とした支援内容となりました。

帰国４時間前に参加者のお一人が急に体調を崩されて、帰国が危うくなるという事件も生じましたが、どうにか無事に帰国できほっと致しております。

カンボジアの都市部は少しずつ近代化され始めましたが、農村部との差はかえって大きくなっていると感じます。村は食べて生きていくのがやっと、着の身着のままという家庭がまだたくさんあります。せめて小学校だけは…という思いで活動をしています。

今後とも引き続きご支援いただければ大変ありがたく存じます。

多摩川コールタメイの手作り看板の前で記念撮影

多摩川コールタメイ小学校の様子

「多摩川」が引き寄せた優秀な先生二人！！

この学校が日本の寄付とわかるような名前をつけようという声から「多摩川コールタメイ」となったのですが、「多摩川」という名前をつけてよいものか少々抵抗感がありました。ところが、この名前が思わぬ「良い仕事」をしてくれました。

学校に、なんと英語が話せ、音楽や運動指導もできるとてもやる気に満ちた、二人の若い優秀な先生が赴任しました。トロクとタットムの先生達１２名が皆英語は話せず、音楽、体育の指導もできないのを知っているだけに、なぜこんなに優秀な先生が来てくれたのかとても不思議に思いこの学校に来た理由を聞いてみました。

すると、赴任可能な学校リストの中に「多摩川」とあったので外国支援でできた学校とわかり、（勉強した）英語も使うことができると思って自分から希望したというのです。このネーミングのすばらしい巧妙に思わずガッツポーズです！！

さらに、自宅から距離はあるが、教師用の宿舎があったことも決め手となったといいます。実は寄宿舎は、校舎と同時にすることはない、という反対の声に理事長が「絶対に必要だから自分たち夫婦から寄贈する」と個人で寄贈したものです。

反対を押し切って寄贈した理事長にも感謝！感謝！

この熱心なすばらしい先生二人の努力に報えるように、この先も長く学校にいてもらえるようにASAPも力を貸していきます！

シン・マカラ先生

ホン・サムフット先生

学校自立支援プロジェクト『ドラゴンフルーツ大作戦』

学校が自立するために何かしらの収入が得られる方法として、『ドラゴンフルーツを栽培し売って収入にする』案が浮上しました。校庭の奥に広がる敷地にまずは150本のドラゴンフルーツの苗を植え栽培してみることになりました。早ければ来年の春には収穫ができるようです。若き先生に期待します。

校舎にみられた不都合箇所点検及び修理依頼

８月に完成したばかりの校舎にもかかわらず、「窓に隙間やドアに穴があいていたりする。」という報告を先生達から受けました。日本の感覚ではありえない状況です。建築会社の社長さんにしっかり現場を見てもらい、修理の約束をしました。

トロク、タットム小学校の様子

嬉しい賛辞（トロク小学校）

　トロク小学校の支援を始めて７年ですがとても嬉しいことがありました。
JICA のシニアボランティアをカンボジアのシェムリアップで４年間努め帰国された伊藤明子さんにお会いする機会がありました。
伊藤さんによると**「トロク小学校は在籍数や中退者をきちんと把握しており、中退者も少なくとても優秀な学校だったので、地区の代表校になっている」**というのです。なんと嬉しいことでしょう！
支援を始めたころは在籍数や中退者の人数を聞いても「？」の状態で、**訪問の度にその大切さを説いてきた甲斐があったというものです**。
　現在当初５０％いた中退者が今年は９名と少なく、ASAP の教育支援金で校長先生がトイレまで水を引く大きな工事を成し遂げてくれてもいました。

井戸から水を引いた校長手作りの水道

困った事態ー屋根の雨漏り問題（トロク小学校）

　反面、以前もお伝えしましたが、校舎の屋根の傷みによる雨漏りという困った問題も生じています。この校舎は ASAP の支援の入る前に「カリタス教会という」団体によって寄贈されたものですが、建築後一度も訪問はないそうです。どうか修理してもらえないかと相談を受けてから１年間様子を見ていましたが、何の進展もありません。
修理には１００万円程かかります。村人や村の寺の協力はないのでしょうか。そこで今回は、学校の管理委員の方々に学校に来て頂き話し合いの場を持ちました

…主なやり取り…

学校は村の宝であるはず。皆で少しずつお金を出し合って学校の運営を支える事はできないのか
村の経済はとても貧しく、お米を持ち寄ったり力をかす事はできても屋根を直す力はない

お寺は助けてくれないのか
お寺は助けることはしない

大きな修理をする場合はどうするのか
支援をしてくれる団体を探す

雨季には床に水が貯まります

つまりは、やはり村に修理をする力はないのが現状です。
カリタスジャパンやカンボジアカリタスにも問い合わせてみましたが、「自分たちが建てたものでないので支援はできない。」と何の解決策もありません。

発展途上国に学校を寄贈するという話はよく聞きますが、建てた後訪問を続けている団体は本当に少ないです。建てるだけはなんと楽な支援の方法なのでしょうか。

材質や技術が未熟で建築後すぐに様々な問題が生じてくるというのに、そういった問題を知らずにすむのですから…。ASAP のように継続するということは、この屋根の修理の件のようにその学校、地区が抱えている問題の解決をしていくことになります。

ASAP にとって１００万円は大変大きな額です。他団体が建てた建物修理まで請け負う必要があるのか検討を続けました。とても地味な支援だからといって、地に足をつけた本当に必要な支援をするのがモットーの ASAP として、雨漏りを放置し校舎が朽ち果てていくのを見て見ぬふりをすることもできません。

理事会は修理を決断しました。支援者の皆様にもどうぞ修理までの経緯をご理解いただけたらと思います。

学校の門の問題 （タットム小学校）

放牧牛から学校の農作物を守る門がほしいと要請されているのですが、トロク小学校の屋根修理を優先することになり、門のほうは延期となりました

スーパー井戸の様子（タットム小学校）

週に２度担当の先生によって順調に管理されています。
水の出が悪くなったという報告を受け、今回修理をお願いしました

管理委員との話し合い（トロク、タットム小学校）

トロク小学校同様に管理委員の皆さんに集まっていただき、 ASAP の支援がこの先ずっと続くとも限らないので、村の収入を上げ、その一部を学校運営にまわす方法―たとえば家畜を飼って収入を得るなどの具体的な方法はないか、などを話し合いました。牛を飼い子牛を売って利益を得る案が浮上しましたので、今後の検討課題となりました。学校で修理などが必要になったときなどは、(資金援助はできるだけするが)村も力を出し合い、一緒に学校を守って行きましょうと呼びかけました。

学校管理委員は村から選ばれた人達です

多摩川コールタメイ小学校宿泊体験記

副理事長　大沼　陽子

多摩川コールタメイ小学校には ASAP 理事長夫妻が寄贈した小さな職員用宿舎があります。完成した宿舎を見てむくむく膨らんだのは、「ここに泊まって学校の一日、村の夜を見てみたい」という思いでした。
ASAP の活動にかかわり５年たちますが、まだ村の朝を知りません。
電気も水道もないあの村に泊まるのはかなり勇気がいることでしたが、この目で見たいという気持ちには勝てませんでした。いざというときの食料を持参し、夕方学校へ向かいました。

二部屋でバルコニー付き宿舎

これは忙しい！先生の一日

多摩川コールタメイの先生には教える意外にもうひとつ「（自分たちの）食事作り」という仕事があります。日本でも自炊の若者は大勢いますが事情が違います。電気がないので冷蔵庫などなく、真夏の暑さの国では食料を保存しておくことができず毎日食料調達をしなければなりません。そして料理はかまどです。教えながらそれをしなくてはならないのです。どんなに大変なことでしょうか。便利な自分の生活のありがたさを噛み締めました。

夜の英語の授業

そんな忙しい先生たちなのですが、なんと、村のこども達に夜無料で２時間英語を教えているのです。ボランティアの授業です。
ボランティアの授業をのぞいてみました。**（表紙の写真をご覧下さい）**
真っ暗な教室の中、車のバッテリーによる広い教室にたった一つの電球の元たくさんの子ども達が集まってきていました。手元を照らすと黒板に光が反射して字が読めず、黒板を照らすと暗くて手元が見えません。そのような中で先生と子どもは真剣です。二十歳そこそこの若い先生ですが、その熱心な姿に心がうたれました。
先生はなんと少し音楽ができ、ASAP がプレゼントしたピアニカを弾き子供たちと歌っていました。メロディーに伴奏を教えてあげると、学校が終わり宿舎に戻っても練習をしています。シーンとした暗い学校にメロディオンの音色が夜遅くまで鳴り響いていました。
（いつか、じっくりと教えてあげたい気持ちでいっぱいになります）

村の夜の様子

英語の授業のあとはろうそくの元で夕食です。なんと校長先生の奥様が手作り料理を運んで来てくれました！肉料理を前に、先生二人は**「牛肉だ～♥♥」**と大喜び。（その姿にまた一人胸が熱くなっていました）ちなみにその晩は満月だったため、見ることはできませんでしたが、星や天の川が見え、時には蛍（？）も飛ぶそうです

　村の家を覗きに行きました。電気のある少し豊かな家の軒下（床下）に村人たちが集まり、その横では、やはりバッテリーで動くパソコンの DVD を大勢の子ども達が取り囲んでいます。静かな夜の中、遠くの学校からメロディオンが流れていました。

学校の朝

６時に起床。窓から外を見ると、鶏のような鳥たちが郡をなして道を走っていきました。学校の朝は早く、７時には一時間目が始まります。朝いっせいに子ども達が教室と校庭をほうき（椰子の枝？）ではいて掃除から始まりました。（校庭をきれいに、という ASAP のアドバイスを守ってくれていました）

一時間の授業の後　世界給食機構（WFP）による給食の時間があります。

近所のお母さんがバケツにご飯とスープを運こび、配るのは先生。かばんから取り出したマイお皿を手にした子ども達が先生の周りに一斉に群がり、ご飯をよそってもらった子は好きな場所で食べ始めます。〇〇でなければいけない、という約束事が多い日本と大違い！このおおらかさがなんともいえない暖かい時間の流れに感じました。

朝食が終わると再び授業が始まります。（午前と午後の部は月ごとに変わるそうです）

DVD の前に集まる子ども達

給食は大切な栄養源です

机の上に座って食べても OK

一言で表すならば、「すばらしい体験」でした。
何もないジャングルに学校ができ、先生が来て、子ども達が集まり、教育が行われる。
こんな当たり前のことがどんなにすばらしいことなのかを、そして、どんな国もこの様な道を経て現在に至っているのだ　ということを体感し、先進国としての責任も痛感いたしました。
次回支援ツアーでは宿泊体験も企画しましたので勇気のある方、泊まってみませんか？
一人では何もできなくても、集まると大きな力になります。
ASAP の皆さんの力が集まり、学校が誕生し、しっかりと一歩を踏み出しています

Mother to Mother 報告

一枚のコップ入れからスタートした「Mother to Mother」活動ですが、昨年に引き続き、新入園児や小学校入学を控えるご家庭へ、ご紹介をして頂ける園を増やすことができました。作品展やバザー、喫茶店やお店で商品を紹介させて頂く機会も頂戴いたしました。
金沢支部として頑張ってくれている皆さん、準備をボランティアで支えて下さった皆さん、カンボジアの子ども達を学校へと応援下さって本当にありがとうございます。
こういった活動は何よりも継続が大切でありますが、実はそれが難しいことでもあります。
精一杯頑張ってまいりますので今後共ご支援いただければと願います。

日本から持参の材料の受け渡し風景

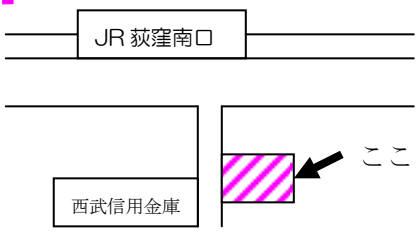
Mother to Mother のお母さんの家の中

板橋区みその幼稚園での販売風景

相模大野「KOTORI」さんで一ヶ月の無料展示販売

会員の方が開くお店　「アンゲル」

（中央線荻窪、徒歩 30 秒）のお店にて
Mother to Mother の品を販売して頂いています。
ぜひ覗いて見てください。
本格的オープンは 3 月中旬ということです。



やったー！学校で美術教育が始まります

シェムリアップに日本人の女性（笠原知子さん）が開く「小さな美術学校」があります。（　http://www.smallartschool.org/。）カンボジアはポルポト政権時代に芸術家を含む知識人が皆殺しにあったため、今でも学校で音楽、体育、美術の授業はありません。そんな子ども達に笠原さんは無料で絵を教えています。アトリエには習って２年とは思えないすばらしい絵が並び、最近ではコンテストにも入賞する作品が出てきているそうです。そんな笠原さんに、タットム、トロク小学校で時々絵画指導をしていただけないかとご相談したところ、両校の一年生へのお試し授業を経て、両校を大変気に入っていただき、定期的にご指導いただけることになりました。**タットム、トロクで美術の授業が始まります！**
先生たちも笠原さんの指導をみて学ぶ機会になります！夢のような凄いことです！

次期寄贈校舎地決定（キロタチュム小学校）

シェムリアップから 50 キロ程にあるキロタチュム小学校が次期候補になりました
◆生徒２１８人　◆先生５人　◆未就（未登録）児童４０人
現在３教室の主校舎がありますが、教室に使えるのは一教室のみで校庭の椰子の葉の２教室のみで授業を行っています。その為、隣接の３つの村に通わざるを得ない生徒が、遠方のためドロップアウトしてしまうという問題を抱えています。しかし残念ですが、トロク小学校の屋根修理が浮上したため、着工時期を一年延ばさざるを得ません。
キロタチュム小学校校舎建築費用への特別寄付大歓迎です！！

キロタチュム小学校の校庭に建つ二つの教室。

ASAP 支援ツアーに参加して

上田　恵子

私は ASAP の支援活動の旅に同行させていただき、初めてカンボジアを訪れました。ASAP の理事の方々は夜遅くの到着にもかかわらず、翌朝から精力的に各学校を訪問し、校舎など設備の点検から校長先生をはじめ先生方からの問題点やリクエスト、そして ASAP の考えなど限られた時間の中で最大限出来ることを行っており、その姿勢が確かなもので、信頼されているという印象を受けました。それぞれの学校の職員も子ども達への支援を無駄にしないように努力している姿が印象的でした。支援を続けている ASAP とカンボジアの絆を感じました。

特に多摩川コールタメイ小では日本語で書かれた「多摩川コールタメイ小学校」と書かれた看板が校門横に掲げられていて大変感動しました。

コールタメイ小学校ではお二人の若い先生方が特に一生懸命で、夜、子ども達を低学年と高学年に分けて暗がりの中で英語を教えていました。先生も辞書片手に、子ども達もほとんど見えない黒板に書かれた文章を書き写していて、今の日本ではあまり聞く事のない「蛍雪」という言葉を思い出しました。本当にその言葉が今も生きているのです。　でも子どもや先生達に暗い感じは全く無く、みんな明るく生き生きとしていて漲るエネルギーを感じ、私が元気を沢山もらうことができました。

私も何でも頑張らないといけないと感じさせてくれた、とても前向きなカンボジアツアーでした。

校長先生と二人の先生が作ってくれた看板。手書きの日本語が嬉しいですね

別紙ご案内いたしました８月の支援ツアーでも訪問します。ご一緒しませんか？

認定 NPO 法人申請についてのご報告

この一年進めてきた、寄付金が所得税控除の対象になる「認定 NPO 法人」への申請手続きの準備が整い昨年８月都庁に提出致しました。後は認定を待つばかりと思っていたのですが、思わぬ事が判明しました。①『ASAP 理事の中に、親族関係の者が二名含まれている事』②『ASAP 理事の中の多摩川幼稚園関係者の割合が、三分の一以上であった事』が条件に違反していると言われたのです。①に関しては条文を読む限り会計士の方にも理解できなかった難文の為でした。②につきましては、幼稚園理事長が個人的に校舎を寄贈したのちに、「継続してこそ本当の支援」と幼稚園関係者の方々が集まり NPO になった経緯からでした。「違反」という事で向こう２年間は申請さえもできない状態になってしまいました。事前に専門の方に色々と相談し、かなりの時間と手間をかけて準備を進めてまいりましたので、この結果に継続する気力もなくなったほどでした。専門の方にも理解できなかったお役所言葉とはいったいなんなのでしょうか…。思わぬ事情で大変残念ながら向こう２年間は認定を受けられない結果となった事をご報告させて頂きます。

孤児院訪問

昨年５月から今年の３月まで現地サポーターを努めて下さっている渡辺さんは東京立川市の児童養護施設至誠学園の職員です。今回ツアーに参加されたのはその同僚の方々ということもあり、シェムリアップの孤児院を訪問しました。カンボジアにはエイズ孤児をはじめ、貧困の為の孤児が沢山います。ひどい環境の孤児院も多くあると聞きましたが、訪問した KESEDO 孤児院はこざっぱりとした小さな孤児院でした。将来の自立のために習っている踊りで歓迎してくれました。

町の学校訪問（シェムリアップ最大の小学校ワットボー小学校）

日本の女性が音楽活動をし、クメール語の音楽の教科書を製作していると聞き、購入の為訪問しました。生徒数３０００人のとても大きく立派な学校で村との格差に圧倒されました。
しかし『村では貧しくてもお米があればしのげるが、町で貧しいと本当に食べられない』という、やはり貧困からくる問題があるというお話でした

カンボジアで初めて見た「下駄箱」
教育は学校からですね

～　活動は皆様からの支援金で支えられています　～

支援金寄付について

ご寄付頂く会費又は支援金は下記口座に振り込みをお願い致します。　＊　正 会 員…　年 20.000 円
＊　賛助会員…毎月 1.000 円（年額 12000 円）
＊　その他支援金…金額を問わず随時受け付けております

■郵便振替口座　00130-2-594647
『ＮＰＯアジアの子供たちの就学を支援する会』

■西武信用金庫　秋川支店　033
普通口座　1292601
口座名　『NPO 法人アジアの子どもたちの就学を支援する会
理事長　長谷川　安年（ハセガワ　ヤストシ）』

＊注　同封の振込み用紙は振り込み料がかかりません。ご記入の上ご利用下さい

あきる野多摩川学園カンボジア通信
ASAP 会報　Vol.11　2013.3

■発　行　　※NPO 法人　アジアの子どもたちの就学を支援する会
（省略“ASAP”　Asia　School　Attendance　Partnership）

〒197-0825　東京都あきる野市雨間 429 番地
TEL　042-558-0218（多摩川幼稚園内）
FAX　042-550-2467
メールアドレス　asap@tamagawa-kids.jp
ホームページ　http://www.tamagawa-kids.jp/asap/

■発行人　　長谷川　安年